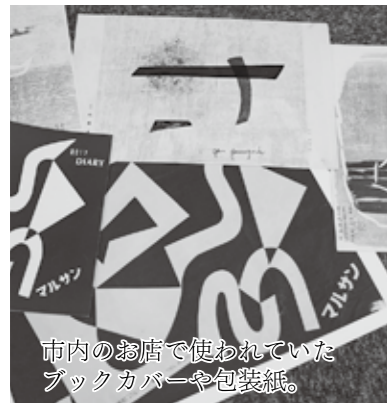




沼津西高校で行われたワークショップでは、芸術科美術専攻の生徒たちが版画に触れました。



市内のお店で使われていたブックカバーや包装紙。

現代に通じるクリエイティブ

沼津市における版画芸術の裾野拡大を目的に、市では、新たな試みとして「版画ワークショップ」を開催しました。初の開催となる今年度は沼津西高校芸術科美術専攻の生徒を対象に、山口源新人賞受賞者（濱田路子さん、中村花絵さん）を講師に迎え、授業の一環として版画に慣れ親しむ機会を提供しました。

版画技法のひとつであるシルクスクリーンに挑戦した生徒のひとりには「技法は勉強したことがあるけれど、やってみるのは初めてです。布にも印刷できることや、版の作り方などがおもしろかったです」と目を丸くしていました。

また、山口源の作品はマルサン書店のブックカバーに採用されたり、かつて上土商店街にあった和洋菓子店、旭園本店（現・Grandma）の包装紙に使われるなど、

アトリエ跡の記念碑の脇には、生前山口源が残した詩「朝のバラ」が刻まれています。そこには、山口源の、目の前にある感動的な美しいものを自らの胸に深く刻み、普遍的な美しさとする想いがたしかに残されています。

皆さんもぜひ、沼津ゆかりの偉大な版画家とその作品に触れ、芸術を体感して下さい。



第33回 山口源新人賞
「平凡な日常の断片Ⅳ」シルクスクリーン 85×127cm
中村花絵さん



普遍的な風景から気が付いた新たな感情や視点を、まるでディスプレイ画面のように表現したシルクスクリーン作品「平凡な日常の断片Ⅳ」で、第33回山口源新人賞を受賞した中村花絵さん。「受賞は活動の励みとなりました。賞をきっかけに沼津について知ることができ嬉しく思います。素晴らしい作家が沼津から輩出されることを願い、少しでも貢献できれば幸いです」と話してくれました。

本市を代表する芸術家山口源の名を冠した賞ですので、市民の皆さんもぜひ注目して下さい。



櫻井萌香さん



第35回 山口源新人賞
「REM sheep」銅版 60×45cm

芸術文化の向上を願い制定された版画アワード。



第32回 山口源新人賞
「WFH(ダブルエフエイチ)」木版画 91×160cm
濱田路子さん



山口源賞、新人賞

市では、山口源の功績を顕彰するとともに、版画を通して市民の芸術文化の向上を図るため、1983年に山口源賞を制定しました。なかでも、毎年選出される新人賞は、若手版画家にとつての登竜門と認められています。

濱田路子さんは、人物写真をもとに、制作の過程で無意識に表出する感情を描きあげた実験的な作品「WFH」をエントリーし、第32回山口源新人賞を受賞しました。濱田さんは「すばらしい賞を頂き大変光栄です。これからも賞に恥じない活動や制作を続けていきたいです」と今後のさらなる意気込みを語ってくれました。

2017年新人賞

今年度は、櫻井萌香さんが制作した、銅版「REM sheep」が新人賞を受賞。櫻井さんは「名誉ある賞を頂き光栄です。作品を作り続けることは、技術だけでなく精神面の向上にも繋がります。これからも自分と向き合いながら、制作に励みたいですよ」と喜びのコメントを寄せてくれました。

山口源賞の展示は2018年2月3日からモンミュゼ沼津で予定されています。この期間、これまでの受賞作品も多数展示されますので、これを機に沼津と縁の深い版画芸術に触れてみて下さい。